

【研究名】：シスプラチンによる腎障害発現の要因解析

【目的】

シスプラチンの代表的な副作用として、腎障害、耳毒性、悪心・嘔吐、末梢運動・知覚神経障害、骨髄抑制などがあります。シスプラチンによる腎障害は臨床上大きな問題となっており、その対策は急務です。本研究では、シスプラチンを施行された患者を対象に腎機能や合併症の有無等、腎障害発現の要因解析を試みます。

【研究意義】

腎障害発現要因に寄与する患者背景を解明することが、シスプラチンの適正使用につながると期待されま

す。

【研究内容】

2009年6月～2013年12月にシスプラチンを初回投与された患者さんを対象に、年齢、体重、検査値、薬歴などを調査します。

【研究期間】

2014年9月～2015年8月の1年間を予定しています。

【患者さんの個人情報の管理について】

厚生労働省「疫学研究に関する倫理指針」に基づいて患者さんのプライバシーを守るよう努めています。結果の発表や出版に際しては個人が特定できるような情報は掲載しませんので、患者さんの不利益となることはありません。

【研究実施体制】

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

教授 荒木 博陽

講師 田中 亮裕

副部長 田中 守

主任薬剤師 河添 仁

薬剤師 濟川 聡美

薬剤師 上野 昌紀

薬剤師 戸田 陽香

【研究成果】

シスプラチン高用量投与時には腎障害発現に注意が必要である可能性が示唆された。